

ブルネイ・ダルサラームの経済発展と金融商品

—イスラーム型担保融資の実践とその役割—

平成 25 年入学

派遣国：ブルネイ・ダルサラーム

上原 健太郎

キーワード：経済発展，国家開発計画，イスラーム金融商品，担保融資，金（gold）

対象とする問題の概要

現代ブルネイ・ダルサラーム（以下ブルネイ）は，東南アジア諸国の中で，イスラーム経済システムの導入・育成に熱心な国家の一つといえる。これまでのブルネイは，国内で産出される石油・天然ガスの輸出により東南アジアの「豊かな国」として認知されてきた。その一方で国内経済の課題として，天然資源を中心とした経済構造の多様化，また全人口の約 65%を占めるブルネイ・マレー人による民間部門参入の活発化が，国内外で指摘されてきた。

それらの課題解決を目指して，ブルネイでは金融業の発展が注目されてきた。その中でもイスラーム金融は，金融機関の設立・合併を通じて，現在急速な成長を遂げてきている。1990 年代からブルネイで発展してきたイスラーム金融は，その資産シェアが国内の全体の約 40%に達する勢いを見せているなど，ブルネイの経済構造において一定の影響をもつ。

研究目的

本研究の目的は，ブルネイ経済におけるイスラーム金融の役割について明らかにすることである。この目的を達成するために，以下の 2 つの問いを挙げた。1 つは，ブルネイで展開されている経済発展戦略の特徴とは何か，という問いである。もう 1 つは，そのようなヴィジョンにおいてイスラーム金融が如何なる経済的な役割を担っているかという問いである。

これらの問いに対して，現地において以下の調査を実施することとした。第一の問いに対しては，経済発展戦略の内容を明らかにする手掛かりの一つとして，国家開発計画（Rancangan Kemajuan Negara / National Development Plan）を収集し，資料読解を行うこととした。次に第二の問いに対しては，ブルネイで提供されているイスラーム金融商品に着目して，その実践，及び経済的な役割についての考察を想定した。

フィールドワークから得られた知見について

2014 年 9 月に行った今回のフィールドワークでは，ブルネイの代表的な高等教育機関であるブルネイ・ダルサラーム大学（Universiti Brunei Darussalam: UBD）の図書館（UBD Library）で文献収集を行い，またイスラーム金融機関への聞き取り調査を実施した¹。上記で挙げた目的に基づく調査を行った結果，

¹ 今回の調査では，本学アジア・アフリカ地域研究研究科と部局間交流協定（MOU）を結んでいるブルネイ・ダルサラーム大学スルターン・オマル・アリー・サイフッディーン・イスラーム研究センター

以下の知見が得られた。

まず、上記の大学図書館において、日本国内には未所蔵の文献を収集、及び読解することができた。特筆すべき成果として、近年の国家開発計画が、ブルネイの国家理念であるマレー・イスラーム君主制（Malay Islam Beraja, 以下 MIB / Malay Islamic Monarchy）を前提とした経済発展を志向していることが挙げられる²。

次に、金融機関へ聞き取り調査を行った結果、近年イスラーム型の担保融資（以下、ラフン）という金融商品の取引が活発に行われているということが分かった。ラフンは、国内最大の金融資産を有するブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行（Bank Islam Brunei Darussalam, 以下 BIBD）によって、首都バンドル・スリ・ブガワン（Bandar Seri Begawan）と商業都市スリア（Seria）において提供が行われており、その起源は 1996 年にまで遡る。

ラフンの取引では、まず必要書類（身分証明書、直近の給与明細書、結婚・離婚証明書）を提出し、次に質物である金（gold）などの宝石の価値を計測（約 15～20 分）し、最後に貸出を行う。他の金融商品に比べ、事業計画を提出する必要がないため手続きが簡易であり、かつ質物の価値が計測され次第、すぐに貸出が行われる。手続きの簡易さと速さがラフンの利点とされている。

その経済的な役割として、ブルネイ・マレー人の経済活動、特に金（gold）を装飾品として所有する女性の事業資金として、ラフンが機能していることが聞き取り調査を通じて明らかになった。



写真 1：首都バンドル・スリ・ブガワンにあるラフン部門

（UBD Sultan Osman ‘Ali Saifuddin Centre of Islamic Studies, SOASCIS）、またそのセンター長であるオスマン・バカル教授から多大な協力を得た。ここに感謝の意を記しておく。

² MIB は、ブルネイが英国から完全独立した 1984 年に打ち出され、1990 年代からは初等・中等教育の必修科目として定められているなど、ブルネイを象徴する概念の一つである。マレーはブルネイ・マレー人の想定、イスラームはイスラームの原理に沿った国家・社会の運営、王権は国王による統治の正当性を示す。



写真2：質物の質量を計測するブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行のスタッフ

今後の展開・反省点

今後の研究では、イスラーム金融とブルネイ・マレー人による経済活動との関係を示すことによって、ブルネイの経済発展戦略の特徴を明らかにしていきたい。具体的には、今回のフィールドワークで発見したラフンについて、「なぜ顧客は、お金を借りるために金を担保にするのか」、「ブルネイ社会における金の普及は、どの程度なのか」、また「イスラーム銀行は数ある金融商品の中で、なぜラフンを積極的に提供してきたのか」という問いについて取り組み、研究を展開していく。

今回のフィールドワークの反省点は、ラフンの顧客へのインタビューが殆ど行えなかったことである。次回の調査では、ラフンを使用する顧客への聞き取り調査を通じてそのメリット、また質物として指定されている金がマレー文化において、どのように位置づけられているのかという諸問題への考察を課題としたい。



写真3：首都バンダル・スリ・ブガワン随一の商業地区ガドンにあるザ・モール